

2026年度入学者選抜問題(専門科目)

[illegible]

問題 1

A. 子どもが家事の手伝いをするたびに小遣いを与えると、家事の手伝いをするようになった。

B. レモンを食べたことがある人は、レモンを見るだけで唾液が出るようになった。

C. 歯医者から痛い歯の治療を受けた子どもが、その後歯医者を恐れるようになった。

D. 宿題をしないで罰をしばしば受けていた生徒が、たまたま宿題をしていて罰を避けられてから、宿題をするようになった。

- | | | |
|---|---|---|
| ① | A | B |
| ② | A | C |
| ③ | A | D |
| ④ | B | C |
| ⑤ | B | D |

問題 2

言語に関する用語とそれに関連する人物の組み合わせの中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 普遍文法 —— Skinner, B.F.
- ② マザリーズ —— Bandura, A.
- ③ 言語相対性仮説 —— Sapir, E. & Whorf, B.L.
- ④ 制約論 —— Chomsky, N.A.
- ⑤ 語用論 —— Markman, E.M.

問題3

Piaget, J. によって考案された三つ山課題に関する次の記述の中から正しいものを一つ選びなさい。

- ① 「体制化」の獲得が認められる課題
- ② 「量の保存」の獲得が認められる課題
- ③ 「同化」と「調節」の過程が認められる課題
- ④ 「対象の永続性」の獲得が認められる課題
- ⑤ 「脱中心化」が認められる課題

問題4

エイジング・パラドクスに関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① エイジング・パラドクスとは、高齢期よりも青年期のほうが、相対的に適応度が高いことをいう。
- ② エイジング・パラドクスとは、高齢期においても幸福感や心理的安定感が維持される現象のことである。
- ③ エイジング・パラドクスとは、高齢になるほど身体的健康が促進される現象のことである。
- ④ エイジング・パラドクスとは、高齢期における超越的な世界観の変化のことをいう。
- ⑤ エイジング・パラドクスとは、高齢になるほど知的能力が高まる現象のことである。

問題5

脳の機能局在に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 運動言語野は前頭葉と側頭葉にまたがる。
- ② 一次運動野は頭頂葉の中心前回にある。
- ③ 一次体性感覚野は前頭葉の中心後回にある。
- ④ 感覚言語野は側頭葉と頭頂葉にまたがる。
- ⑤ 一次聴覚野は後頭葉にある。

問題6

19歳の女性。COVID-19に感染し療養生活を送っていた。症状回復後も「手指や全身にウイルスがこびりついている」と頻回に手洗いやアルコール消毒を行うようになった。同居の家族にも手洗い・消毒を強要するようになったため、心配した家族に連れられて精神科医療機関を受診した。

この患者への最初の対応として、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 心配していることは現実には起こり得ないと説得する。
- ② 初回面接では不安についてのアセスメントを中心に行う。
- ③ 症状が出現した背景を探るため、分析的心理療法を行う。
- ④ 認知機能障害が疑われるため、神経心理検査によるアセスメントを行う。
- ⑤ 幻覚妄想状態が疑われるため、抗精神病薬の投与を検討する。

問題7

高齢者向け心理検査に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを下の①から⑤の中から一つ選びなさい。

- A. HDS-R（改訂長谷川式簡易知能評価スケール）は9項目からなり、見当識に関する質問など、言語性課題のみで構成されている。
- B. COGNISTAT 認知機能検査は、被検者の保持されている能力のみを捉える検査である。
- C. MMSE（Mini-Mental State Examination）は、20点以下で認知症の疑いありと評価される。
- D. ADAS-cog は、アルツハイマー病評価尺度とも呼ばれ、アルツハイマー型認知症の状態を評価する。

- ① A B
- ② A C
- ③ A D
- ④ B C
- ⑤ B D

問題8

次の思春期・青年期に関する用語とそれに関連する人物の組み合わせの中から、誤っているものを一つ選びなさい。

- ① アイデンティティ拡散 —— Erikson, E.H.
- ② 疾風怒涛 —— Hall, G.S.
- ③ 第2の誕生 —— Blos, P.
- ④ アイデンティティ・ステイタス —— Marcia, J.E.
- ⑤ 心理的離乳 —— Hollingworth, L.S.

問題9

Freud, S. のエディプス・コンプレックスに関する次の記述の中から、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 医師 Fliess, W. との文通による自己分析によって見出した。
- ② 早期の母子関係に由来する。
- ③ 1 歳から 3 歳までの時期と関連している。
- ④ 心的外傷の経験に基づいて形成される。
- ⑤ 依存的で、要求がましい性格傾向の基盤となる。

問題10

精神分析的な考えに基づくプレイセラピー（遊戯療法）に関する次の記述の中から、最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① 子どもの主訴を取り除くことを目的とする。
- ② 玩具はつくりが複雑で、考えさせるものがよい。
- ③ セラピストがリードをとり、子どもがついていくことが望ましい。
- ④ セラピーが長くならないよう、セラピストがペースを調整する。
- ⑤ 子どもが現実の世界を考えていけるよう、制限を最小限に設定する。

問題11

研究計画に対する分析手法に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① ある施設で乳幼児健診を受けた 3 歳児の男児・女児の体重の平均値に差があるか検討するためには、対応ありの t 検定を行う。
- ② 2 種類の治療方法（仮に A、B とする）の効果を検討するために、治療 A を受ける群、治療 B を受ける群、統制群を設定し、治療前後の時期に症状評価を行った。症状評価の結果から効果を検討するためには、3 要因分散分析を行う。
- ③ 不安症状と外出への支障の程度の関連について、抑うつ症状と外出への支障の程度の関連の影響を取り除いた偏相関分析を行うことができる。
- ④ 身体感覚に関する不安感受性の強さが、パニック症状に影響する方向と程度を明らかにするために重回帰分析を行う。
- ⑤ 新たな認知能力検査を開発した際、その検査で測定できる認知能力の構造を明らかにするために確認的因子分析を行う。

問題12

パーソナリティ理論に関する次の記述の中から、誤っているものを一つ選びなさい。

- ① Allport, G.W. は多くの人々に共通する「共通特性」と、個人に特徴的な「個別特性」があると考えた。
- ② Cattell, R.B. は、観察可能な行動について、因子分析法を用いていくつかの特性として分類した。
- ③ Jung, C.G. は、心的エネルギーの向かう方向によって内向性・外向性に分け、これに4つの精神機能（思考、感情、感覚、直感）を掛け合わせた8タイプを考えた。
- ④ Eysenck, H.J. は、内向－外向を一次元的な特性として捉えている。
- ⑤ Gray, J.A. は、行動抑制系と行動賦活系の2つの動機づけシステムから個人差をとらえる生物学的パーソナリティ理論を提唱している。

問題13

P-F スタディに関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① GCR が高い場合、周りが期待する行動と異なる場合が多い可能性がある。
- ② アグレッションとは攻撃性のことを示す。
- ③ 自我防衛は障害の指摘にとどめ、自我を守る反応である。
- ④ Rosenzweig, S により開発された検査である。
- ⑤ 24 の刺激からなり、うちひとつは白紙の刺激である。

問題14

質問紙法検査についての次の記述の中から、誤っているものを一つ選びなさい。

- ① TEG は Berne, E. が考案したエゴグラムを用いている。
- ② TEG は自我状態を、FC、AC、CP、NP、A で示す。
- ③ NEO-PI-R はビッグファイブ理論に基づいて作成されたパーソナリティ検査である。
- ④ MPI は Eysenck, H.J. の性格理論に基づいて開発されたパーソナリティ検査である。
- ⑤ YG 性格検査は、12 尺度で構成されている。

問題15

認知行動療法における「自動思考」の特徴に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 無意識下で形成され、気づくことが不可能である。
- ② 状況に応じて瞬間的に生じる個人的な解釈である。
- ③ 思考そのものよりも身体反応に近いとされる。
- ④ 信念や価値観と同義である。
- ⑤ 無意識的衝動を表す言語化できない心的構造である。

問題16

統計的仮説検定における「第1種の誤り (Type I error)」に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 実際には正しい帰無仮説を、誤って棄却してしまうこと
- ② 実際には誤っている帰無仮説を、誤って採択してしまうこと
- ③ 実際には正しい対立仮説を、誤って棄却してしまうこと
- ④ 実際には誤っている対立仮説を、誤って採択してしまうこと
- ⑤ 実際にはごくわずかな差しかないのに、それを有意と判断してしまうこと

問題17

少年法に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 少年法における「少年」とは、刑事責任能力の有無にかかわらず、14歳以上18歳未満の者を指す。
- ② 家庭裁判所は、原則として全ての少年事件を検察庁に送致し、起訴するかどうかを判断させる。
- ③ 家庭裁判所は、保護処分として医療観察法に基づく入院処遇を命じることができる。
- ④ 少年法では、保護処分の対象とならなかった少年に対しても、教育的・福祉的な支援が求められる場合がある。
- ⑤ 16歳未満の少年は、どのような重大犯罪を犯しても、刑事裁判を受けることはない。

問題18

児童相談所の機能に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 児童相談所は、虐待への対応は行うが、障害や非行に関する相談は管轄外である。
- ② 児童相談所における心理職の役割は、子どもの心理療法の実施に限定されている。
- ③ 一時保護は、子どもの同意があれば保護者の許可がなくても原則実施できる。
- ④ 児童相談所は、児童福祉司を中心に、心理、福祉、教育、医療など多職種で構成される専門機関である。
- ⑤ 子どもが非行をした場合、児童相談所はすみやかに検察庁へ通告し、刑事処分を求める。

問題19

職場復帰支援に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 職場復帰支援のプロセスは、職場復帰までの3つの段階で構成されている。
- ② 職場復帰可能とする診断書が主治医から提出された場合は、職場復帰させなければならない。
- ③ 職場復帰支援プランは、職場復帰前の本人の状態や職場の状況を踏まえて作成する。
- ④ 職場復帰後は、本人の自己判断に基づき業務内容を調整するのが望ましい。
- ⑤ 職場復帰後は、決定した職場復帰支援プランが必ず実行できるようにフォローアップする。

問題20

臨床心理士の倫理に関する次の記述の中から、正しいものを一つ選びなさい。

- ① 臨床心理士は、信頼関係を深める手段として、クライアントからの贈り物を受け取ってよい。
- ② 臨床心理士は、所属する機関内であれば、心理支援で得られたクライアントの個人情報を自由に共有してよい。
- ③ 臨床心理士は、援助関係の成果を最優先にして、自己研鑽は必須ではない。
- ④ 臨床心理士は、危機介入でなくても、支援の必要性があると判断した場合は、クライアントの同意なしに家族に情報提供してよい。
- ⑤ 臨床心理士は、心理支援の終結後であっても、クライアントと私的な関係を結ぶことは倫理的に問題がある。

Ⅱ. 次の専門用語について説明しなさい。

- (1) スキーマ
- (2) アダルト・アタッチメント・インタビュー (A.A.I.)